

平成25年度第1回福岡県がん対策推進協議会 平成25年7月31日(水)

1 開会

2 議題

(1) 福岡県がん対策アクションプラン(素案)について(資料1)

(2) がん診療連携拠点病院等について(資料2)

(3) 小児がん拠点病院について(資料3)

(4) その他

3 その他

4 閉会

平成25年度福岡県がん対策推進協議会 委員名簿

平成25年10月16日現在

	氏 名	所 属 ・ 役 職	備 考
1	松田 峻一良	福岡県医師会 会長	再任
2	前原 喜彦	九州大学大学院医学研究院 教授	再任
3	大島 彰	九州がんセンター サイコオンコロジー科医長	再任
4	大庭 千賀子	北九州市保健福祉局健康推進課 課長	—
5	佐田 通夫	久留米大学医学部 教授	再任
6	高橋 和子	がんの子供を守る会 理事	再任
7	高原 文子	福岡県看護協会 副会長	再任
8	田口 智章	九州大学大学院医学研究院 教授	—
9	竹本 伸輔	福岡県薬剤師会 副会長	再任
10	田村 和夫	福岡大学医学部 教授	再任
11	塚田 順一	産業医科大学病院 化学療法センター長	再任
12	津田 泰夫	福岡県医師会 理事	再任
13	藤 也寸志	がん診療連携協議会(九州がんセンター副院長)	再任
14	中島 俊介	福岡県町村会 事務局長	再任
15	南部 由美子	福岡市保健所長会代表	—
16	西原 親	福岡県市長会 みやま市長	再任
17	長谷 宏一	福岡県歯科医師会 会長	—
18	原田 靖	福岡県教育庁教育振興部体育スポーツ健康課 課長	—
19	深野 百合子	あけぼの会 副会長	再任
20	本田 浩	九州大学大学院医学研究院 教授	再任
21	宮崎 親	福岡県保健所長会 代表	—

(50音順 敬称略)

平成25年度第2回福岡県がん対策推進協議会 平成25年11月21日(木)

1 開会

2 議題

(1) 福岡県がん対策アクションプラン(案)について(資料1)

(2) がん診療連携拠点病院等について(資料2)

(3) 小児がん拠点病院について(資料3)

(4) その他

3 その他

4 閉会

<議事資料一覧>

福岡県がん対策アクションプラン(案)(平成25年度～平成29年度)	資料1
新たながん診療提供体制について(報告書)(平成25年9月5日)	資料2-1
緩和ケア推進検討会～第二次中間とりまとめ～(平成25年8月7日)	資料2-2
小児がん拠点病院の指定について(九州大学病院)	資料3-1
小児がん拠点病院リーフレット(九州大学病院)	資料3-2
小児がん拠点病院計画書(九州大学病院)	資料3-3
九州・沖縄地域小児がん地域計画書(九州大学病院)	資料3-4
がん患者会の活動報告	参考資料1
平成25年度福岡県働く世代をがんから守る事業所フォーラム 開催概要	参考資料2

福岡県がん対策推進計画を推進するための具体的な取組

～福岡県がん対策アクションプラン（案）～

（平成25年度～29年度）



福岡県がん検診受診率向上イメージキャラクター
「検診くん」

平成 年 月

福岡県保健医療介護部健康増進課

I 福岡県がん対策アクションプランについて

II 全体目標「がんによる死亡者の減少」

III 個別目標と具体的な取組

1 がん医療

(1) 医療提供体制等の整備

(2) 放射線治療、化学療法、手術療法の更なる充実と医療従事者の育成

(3) がんと診断された時からの緩和ケアの推進

(4) 在宅医療の推進

2 がんに関する相談支援及び情報提供体制の整備

3 がんの予防の推進

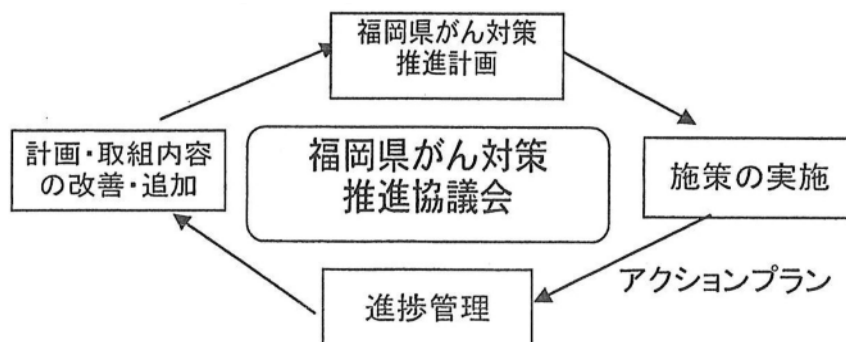
4 がんの早期発見の推進

5 がん登録の推進

6 がん研究の推進

7 働く世代のがん患者支援の充実

8 小児がん対策の充実



8. 小児がん対策の充実 【具体的な取組】

行政

- ・県は、県民に対して小児がんに関する情報提供を行う。

医療機関

- ・小児がん診療を行う医療機関は、小児がん患者またはその家族に、適切な情報提供を行う。
- ・小児がん拠点病院(九州大学病院)と小児がん診療病院(県内では、九州がんセンター、産業医科大学、久留米大学病院、福岡大学病院)は、連携して診療を行う。
- ・小児がん拠点病院・小児がん診療病院は、地域の医療機関(小児連携病院)と連携し、九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会に基づいて、県内における小児がん医療連携体制を構築する。
- ・小児がん拠点病院と拠点病院は、相互の連携を図る。

関係団体

- ・医師会、歯科医師会、薬剤師会は、各会員医療機関に対し、小児がん医療について情報提供を行う。
- ・医師会、看護協会等は、小児がんに関する研修会を開催し、医療従事者の質の向上に努める。

県民

- ・小児がんに関する正しい情報を知る。

厚生労働省指定 九州・沖縄地域小児がん拠点病院

九州大学病院

小児医療センター

リーフレット



九州大学病院

KYUSHU UNIVERSITY HOSPITAL



国の小児がん対策について

厚生労働省のがん対策推進協議会で、小児がん対策の問題点として、1) 小児においてがんは病死原因の第1位であるが、がん対策推進基本計画に小児がん対策はほとんど盛り込まれておらず、小児がん対策が遅れていること 2) 小児がんは多種多様ながん種と幅広い年齢層を念頭に置いた対策が必要 3) 治療による合併症に加え、成長発達期の治療による合併症への対応が必要であり、成人がんとは異なる取り組みが必要であること 4) 毎年、2,000-2,500人の新規患者が約200の施設で治療されているが、必ずしも適切な治療がなされていないこと 5) 治療に関する正確な情報提供・相談支援体制の整備、療養環境や教育体制の整備、治療後長期にわたり支援する診療・相談体制の確立、緩和ケアなどが課題であることが挙げられました。小児がん診療の特殊性と集約化の必要性が明確になりました。

これを受け、がん対策推進基本計画(平成24年6月8日閣議決定)にて、「5年以内に、小児がん拠点病院を整備し、小児がんの中核的な機関の整備を開始する」ことが決定されました。

小児がん拠点病院の要件

小児がん拠点病院の役割と要件は平成24年5-6月の小児がん医療・支援のあり方に関する検討会(計3回)で作成されました。そのおもな点は、

(1) 拠点病院の役割

地域における小児がんの医療と支援を提供する中心施設として、地域全体の小児がん医療と支援の質の向上に資すること、地域医療機関との連携、長期フォローアップの体制整備などの役割を担うこと。

(2) 拠点病院の要件

- ① 診療機能(集学的治療の提供、カンサーボードの開催、長期フォローアップ体制、緩和ケアチームの整備、地域医療機関との連携、セカンドオピニオンの実施など)を有すること。
- ② 診療従事者(放射線治療医師・診療放射線技師・薬剤師・認定看護師など)が配置されていること。
- ③ 医療施設(放射線治療機器の設置、集中治療室の設置など)を有すること。
- ④ 診療実績(造血器腫瘍年間10例程度以上、固形腫瘍年間10例程度以上(うち脳・脊髄腫瘍が2例程度以上))があること。
- ⑤ 日本小児血液・がん学会の「研修施設」及び日本小児外科学会の「認定施設」であること。
- ⑥ 相談支援センター設置していること。
- ⑦ 院内がん登録を実施していること。
- ⑧ 臨床研究(臨床研究専門部署の設置、CRCなどの配置)を実施していること。
- ⑨ 療養環境(保育士の配置、教育支援、プレイルームの整備、長期滞在施設の整備など)が整備されていること。

小児がん拠点病院を中心とする小児がん医療提供体制のイメージ図を示します(図1)。

拠点病院の当面必要な数と地域ブロックについて

小児がんは患者数も少ないことから、患者さんや家族の経済的・社会的な負担を軽減する対策(教育環境の整備、宿泊施設の整備など)も図りながら質の高い医療を提供するため、一定程度の集約化を進めることが必要です。これまで関連する学会の努力により小児がんを専門的に扱う医療機関に一定の集約化が進められています。一方、均てん化のため、患者さんが発育時期を可能な限り慣れ親しんだ地域に留まり、他の子どもたちと同じ生活・教育環境の中で医療や支援を受けられるような環境を整備することも必要です。

したがって、拠点病院の数は、一定程度の集約と地域の小児がん医療の



九州大学病院は平成25年2月8日付で「小児がん拠点病院」の指定を受けました。

全国で15施設が指定され、

九州・沖縄ブロックでは本院が唯一の指定病院です。

小児がん拠点病院の概念と九州大学病院の

小児がん診療の現状、

今後の使命について紹介します。

九州大学病院副院長／小児科長／教授

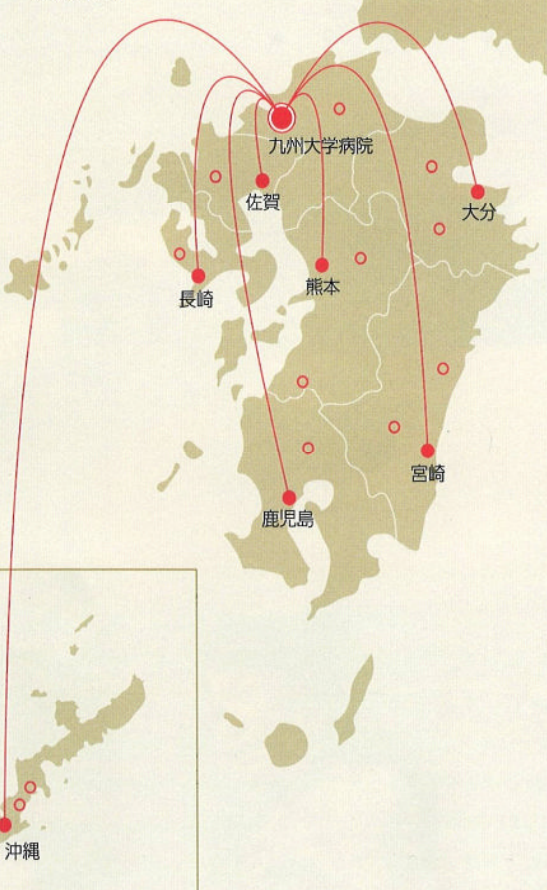
原 寿郎

九州大学病院小児外科、小腸移植外科長／教授

田口 智章

図1 小児がん医療提供体制のイメージ図

● 拠点病院 (九州大学病院)
● 連携大学病院
○ 連携総合病院



均てん化のバランスに配慮し、地域ブロックの設定については、地方厚生局の地域ブロックを参考に、今後、拠点病院の候補となる病院の地理的配置などを踏まえて設定することとしました。

これを受け、厚生労働省「小児がん拠点病院の指定に関する検討会」が公募を行い、ヒアリングの末、15施設が決定しました。

【参考】 地方厚生局の地域ブロック

- ◎北海道ブロック 北海道
- ◎東北ブロック 青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
- ◎関東信越ブロック 茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野
- ◎東海北陸ブロック 富山、石川、岐阜、静岡、愛知、三重
- ◎近畿ブロック 福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
- ◎中国四国ブロック 鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
- ◎九州ブロック 福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

九州大学病院における小児がん診療について

小児がんの内訳は(図2)のように約40パーセントが白血病などの血液がんで、60パーセントが神経芽腫などの固形がんです。九州大学病院の小児がんの診療実績は血液がんでは全国6位、固形がんでは全国2位の症例数で、いずれも九州内では1位の症例数となっています。また診療体制として化学療法、手術療法、放射線療法などの集学的医療を提供できる設備と人材がそろっており、診療科としても小児科、小児外科、放射線科だけでなく、さまざまな固形腫瘍の手術やこころのケアに対応可能な脳神経外科、整形外科、眼科、耳鼻科、皮膚科、泌尿器科、精神科、心療内科、小児歯科が小児がんに対応可能なスタッフをそろえています。

さらに患者支援体制としてメディカルスタッフが協力し、院内と院外にトータルケアを目指したチーム医療体制を整えています(図3)。また長期の入院患者さんの家族が安価で宿泊できる施設も九州大学病院周辺ならびに福岡市内に設置されています(表1)。

今後の九州大学病院小児がん拠点病院の在り方

小児がん診療はやっとスタートラインに立ったばかりであり、これからが正念場です。今後やるべきことを列挙します。

- 1)九州大学病院小児がん拠点病院と連携病院(九州・沖縄の小児がん診療施設)のネットワークの構築と、小児がん医療従事者研修事業(表2)の立ち上げ。
- 2)拠点病院としての、質の高い医療提供を担保するための、人員確保や設備の整備。そのために既存の九州大学病院「がんセンター」との連携と、「小児医療センター」内に「小児がん拠点病院機能」の充実を図ること。
- 3)臨床研究の推進
難治例・再発例を集約化し、新規治療の開発を推進すること。
小児がんは希少のため、企業が小児に特化した薬剤開発を行わないので、難治再発例の集約により、公知申請や新規治療薬の導入の道を拓く。

地域の医療機関／連携病院の先生方へ

- 1)九州大学病院では小児の固形がん、血液がんとともに、すべての臓器にわたりカバーできる診療体制を整えています。
- 2)院内学級や緩和ケア、小児がんにて特化した保育士や臨床心理士の配置など、患者サポート体制も完備しています。
- 3)小児がんはがん腫の種類が多く希少がんが多いので、医療の質を向上し、患者さんに満足していただけるサポート体制づくりには集約化が重要です。難治例・再発例もご遠慮なくご相談ください。

図2 小児がん全国登録 主要疾患 総登録数:40,209(1969年-2003年)

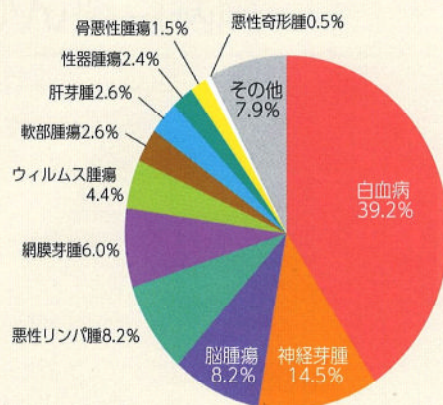


図3 トータルケアを目指したチーム医療(九州大学病院)

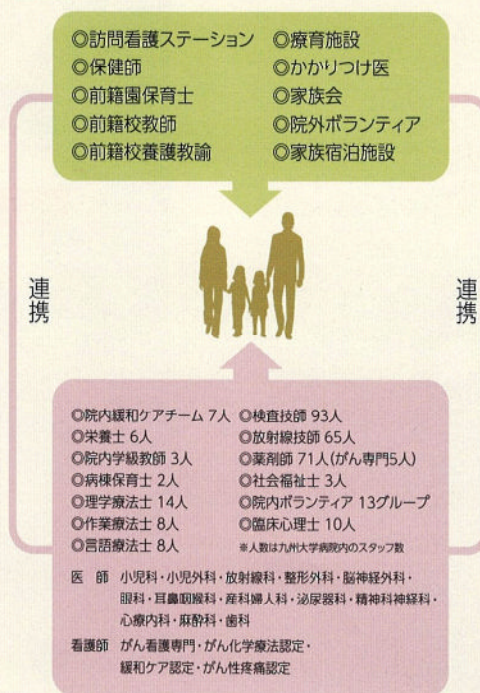


表1 小児がん患者の家族に対する支援(九州大学病院)

小児がんを含む小児入院患者の家族向け宿泊施設	恵愛団ファミリーハウス森の家 ◎九州大学病院から100m ◎調理スペースあり ◎1泊1室2000円
	ぼっぼハウス ◎九州大学病院から200m ◎1K ◎1泊1室800円
	なかよしハウス ◎九州大学病院から7km ◎2K ◎1泊1室800円
	エンゼルハウス ◎九州大学病院から6Km ◎3DK 1泊1室800円 ◎福岡市立こども病院に隣接
	SI福岡バンビハウス ◎九州大学病院から6Km ◎2DK ◎1泊1室800円

表2 九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会 および研修会

第1回	平成25年3月9日実施
第2回	平成25年6月15日実施
第3回	平成26年2月22日実施予定